

心の散歩道

一枚の布

私たちがよく耳にする布施(ふせ)は、梵語では ダー

ナ、दान、檀那(旦那) といい、他人に財物などを

施したり、相手の利益になるよう教えを説くことなど、

与えること を意味します。その語源は、昔、インド

でお釈迦さまが説法を行っていた頃のことです。お坊さんたちは、人間の生きる道の人々に説いて廻っていました。悩める人たちに仏の教えを説き、生きるための智慧(ちえ)や正しい生き方を授けていました。自分で生産活動を行っていないお坊さんは、衣食を人々の施しにより営んでいました。仏の法を人々に施すかわりに財の施しをうけるのです。托鉢(たくはつ)といって、鉢を手に町を歩いて人々から施しをうける姿を見たことはありませんか？

あるお坊さんがいつものように説法をして各家々を廻っていました。とある家で、たいへん良いお話を聞き、生きる希望が湧いてきました。しかし、ご覧の通り私の家は貧乏で、お坊様に差し上げられる物は何一つありません。差し上げられる物といえば、赤ん坊のおしめに使っているこの布ぐらいです。このような物でもよければ・・・ お坊さんは、洗ってはいるものの、黄色くなっている布を有難くいただきました。それから一枚一枚布を集め、四角い布をつぎはぎして衣を作りました。お坊さんが着けている袈裟(けさ)をよく見ると小さな布をつぎはぎしてできています。袈裟はこの様にして多くの人の布施行でつくられたものがあり、仏法そのものです。

心から他の幸せを祈る姿が布施です。布施には 法施(ほうせ) 財施(ざいせ) 無畏施(むいせ) の三種があります。

法施 仏様の教えを人に聞かせること

財施 物質的なものを施すこと

無畏施 不安・恐れ(おそれ)・怖れを取り除いて安らぎの心を施すこと

無畏施には次の無財の七施があります

- 一、眼施(慈眼施)・・・慈(いつくしみ)の眼(まなこ)、優しい目つきですべてに接すること。
- 二、和顔施・・・いつも和やかに、おだやかな顔つきをもって人に対すること。
- 三、愛語施・・・ものやさしい言葉を使うこと。
- 四、身施(捨身施)・・・自分の体を使い出来ることを奉仕すること。
- 五、心施(心慮施)(しんりよせ)・・・自分以外のものの為に心を配り、心の底から、共に喜んであげたり、ともに悲しむこと。他人が受けた心のキズを、自分の心のいたみとして感じ理解してあげること。
- 六、壯座施(そうざせ)・・・わかり易く云えば、座席を譲(ゆず)ること。
- 七、房舎施(ぼうしゃせ)・・・雨や風をしのぐ場所を与えること。

布施行で大切なことは、こだわりのないことです。布施をする者、受ける者、そして施す物が、こだわりのない清浄なもの(心)でなければなりません。お仏壇に燈明・線香等を供え 財施、僧侶の読経と法話を受け 法施、家族皆で 無畏施 を施し合いましょう。

